



公益財団法人・日本高等教育評価機構
平成27年度 評価充実協議会

高等教育のグローバル化の方向性

2015(平成27)年7月7日(火)
アルカディア市ヶ谷(私学会館)

あきら

二宮 皓

比治山大学・比治山大学短期大学部学長
(ninomiya@hijiyama-u.ac.jp)



フラット化する世界

Thomas L. Friedman, *The World is Flat: the Globalized World in the Twenty-first Century*,(2005).

「コロンブスは地球(世界)が丸いことを国王に報告できた。
私は、(インドから帰国し)妻だけに、小声でささやいた。
『世界はフラット(平ら)なんだ』」

(T. フリードマン、1953年米国生まれ、ニューヨークタイムズ紙の
コラムニスト、ジャーナリスト、ピューリッツァ賞を3度受賞。)

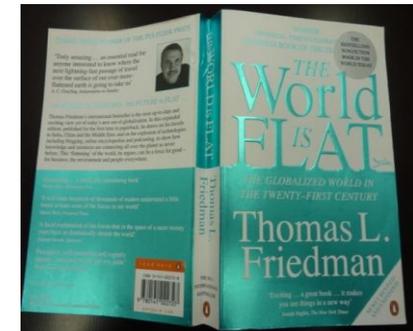
＜フラット化する世界の証左＞

1. インドのInfosysの会社の営業時間は365日、無休、24時間態勢。壁には8個の時計(米・英・インド・シンガポール・香港・日本・豪州)。
 2. 知識労働や知識資本をどこにでも配達できる土台。
 3. 国際競争という競技場がフラット化している。
 4. “Globalization of innovation” (R&D)
- (訳書『フラット化する世界上・下』日本経済新聞社2006年)

本日の講演:グローバル化の20年の展開

・グローバル化は1980年代から進行しており、突然に出現した問題ではないが、その意味や態様が大きく変化してきている(わが国の失われた20年問題)。高等教育については1990年代から今日までの20年間が大きく影響を受ける時代となっている。高等教育も「フラット化」する。

- ◆ 1994/95年(インターネット/GATS)の20年の展開
- ◆ 2005年(フリードマンの著作)
 - ◆ 「国際戦略本部事業」開始、
 - ◆ 留学生30万人計画。
 - ◆ G30など
- ◆ 2015年
 - ◆ 2014年SGU採択、SGH採択
 - ◆ 教育再生会議第7次提言
- ◆ 2025(平成37年)年は(ポスト2020年オリンピック・パラリンピックの高等教育)



「世界のフラット化」をもたらした10の力・・・高等教育に当てはめてみる

1. The Berlin Walls (Nov.9,'89)-the new age of creativity(ベルリンの壁の崩壊と創造性の新時代)
2. WWW and Internet (mid of 90's)-the new age of connectivity(ウェブやインターネットの普及(1990年代中頃)と接続の新時代)
3. Work flow software(共同作業を可能とした新ソフト)
4. Uploading(地域社会の力の活用)
5. Outsourcing(アウトソーシング)
6. Off-shoring(オフショア)
7. Supply-chaining(サプライチェーン)
8. In sourcing(インソーシング)
9. In-forming (Google, Yahoo)(イン・フォーミング(Google, Yahoo など))
10. Digital, Mobile, Personal and Virtual(デジタル、モバイルなど新しいテクノロジー)



I 「フラット化」した世界の高等教育グローバル市場へ参入する —国境を超える高等教育サービス“貿易”と国際競争—

GATS(1995年)は高等教育のグローバリゼーションにとって最も画期的なことである。

- 教育・高等教育は「サービス」である(観光など)。
- 教育サービスは国際的な国境を超える貿易可能なもの、商品である。
 - “Cross-boarder or transnational Higher Education”概念の誕生
 - (International Educationとは違う)
- 国境を超える高等教育サービスを「購入する」人々がいる
 - 私費・自費留学生(教育投資と教育の消費)
 - GATS以前の国際化:近代化と官費(政府)派遣留学・国際親善・国際援助・国際協力(国費留学生受入れ)(ODAとしての留学生政策)
- 高等教育サービス貿易(教育の輸出と輸入)
 - 輸出国・・・留学生を受け入れる国(Inbound)
 - 輸入国・・・留学生の流出(頭脳流出)(outbound)(最近は頭脳流出から頭脳循環型へ)
- 教育サービスの貿易(国境を超えるサービスの提供)には4つのモードがある
 - 第1モード 遠隔教育など
 - 第2モード 留学生
 - 第3モード オフショア・プログラム
 - 第4モード 客員教授など

・大学の「国際化」「国際化戦略」「グローバル化戦略」は、高等教育グローバル市場に参入する戦略であり、手段である。

・二宮「高等教育市場の自由化とその影響に関する研究」『広島大学大学院教育学研究科紀要第3部、第55号、2006年』



(参考) The General Agreement on Trades in Services (GATS) @1994

“The creation of the GATS was one of the landmark achievements of the Uruguay Round, whose results entered into force in January 1995. ...While services currently account for over 60 percent of global production and employment, they represent no more than 20 per cent of total trade. This — seemingly modest — share should not be underestimated, however. Many services, which have long been considered genuine domestic activities, have increasingly become internationally mobile. This trend is likely to continue, owing to the introduction of new transmission technologies (e.g. electronic banking, tele-health or tele-education services), the opening up in many countries of long-entrenched monopolies (e.g. voice telephony and postal services), and regulatory reforms in hitherto tightly regulated sectors such as transport. Combined with changing consumer preferences, such technical and regulatory innovations have enhanced the “tradability” of services and, thus, created a need for multilateral disciplines.

出典 “(http://www.wto.org/english/tratop_e/serv_e/gatsqa_e.htm, Oc.18, 2009 参照)

- ・WTO協定の1つとして1995年1月に発効。
- ・目的「世界経済の成長及び発展のためにサービスの貿易の重要性が増大していることを認め、透明性及び漸進的な自由化の条件の下でサービス貿易を拡大することを目的とし」
- ・政府の権限の行使として提供されるサービス以外のすべての分野におけるすべてのサービス(GATS1条)



“貿易可能な“国境を超える高等教育サービスの4モード(高等教育のグローバル化の展開)ー第1モード「遠隔教育」と第4モード「客員教授」

第1モード(遠隔教育): 遠隔教育サービスの提供(輸出国と輸入国)

- MOOC(Massive Online Open Courseware)は新たな遠隔教育サービス
- もし米国の大学が日本語で教育サービスを提供するとどうなるか
- 日本の高等教育サービスはこのモードで教育を輸出できるか(サイバー大学、放送大学、慣習的大学の挑戦は)
- 世界の日本語を学ぶ人々への大学教育へのアクセスを可能とする?

第4モード(客員教授等): 客員教授の受入・派遣(輸出国と輸入国)

- 外国人教員の雇用(教員の輸入・お雇い外国人)
 - 大学教授市場の開放(国際市場化)、
 - S(T)GUなどの大学における教員の国際公募



“貿易可能な“国境を超える高等教育サービスの4モード(高等教育のグローバル化の展開)―第2モード「留学生」

- 留学生を受入れ・派遣(輸出国と輸入国)
 - 留学生の受入れは教育の輸出である
 - 留学生の市場は自由で公正な市場である(留学生の授業料減免や奨学金政策はどう受けとめるのか)
- 価格競争と生産性向上(授業料等コスト競争・教育ダンピング・魅力競争・良品)
 - 授業料と生活費・・・(参考世界の留学コスト一覧参照)
 - 日本の私学では初年度授業料等納付金は平均で140万円(日本私立大学団体連合会調査)。それに生活費を加えることになる。合計で200万程度? JASSOの調査では授業料と生活費を合わせて平均180万円となっている。(アルバイト収入を考慮すると国際競争力はコスト面で強いのではないか? カナダとフランスの間程度。それでも日本は高いと言われる。)
 - 学位の経済的価値(投資効果)
 - 国内市場価値
 - 国際市場価値
- 留学生教育サービス貿易のインバランス問題(貿易摩擦)
 - 日米摩擦を経験(アメリカ人学生の日本留学はわずか1,000人の問題)
 - 短期交換留学生制度(英語で授業をするコース(短プロ)開設)
 - 短期交換留学プログラムの計算(授業料不徴収条項)
 - 大学の教育の等価交換(単位互換スキーム)
 - 英国の留学生に対する授業料フルコスト負担政策
- 世界の留学生市場と留学生の獲得競争



(参考) 留学コスト(授業料と生活費を合わせた額の高い順)

Cost of international university study

| Country | Annual university fees (USD) | Annual cost of living (USD) | Annual cost total (USD) |
|----------------|------------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| Australia | 24,081 | 18,012 | 42,093 |
| Singapore | 18,937 | 20,292 | 39,229 |
| United States | 24,914 | 11,651 | 36,564 |
| United Kingdom | 21,365 | 13,680 | 35,045 |
| Hong Kong | 13,444 | 18,696 | 32,140 |
| Canada | 16,746 | 13,201 | 29,947 |
| France | 247 | 16,530 | 16,777 |
| Malaysia | 2,453 | 10,488 | 12,941 |
| Indonesia | 4,378 | 8,527 | 12,905 |
| Brazil | 59 | 12,569 | 12,627 |
| Taiwan | 3,338 | 8,573 | 11,911 |
| Turkey | 1,276 | 10,089 | 11,365 |
| China | 3,844 | 6,886 | 10,729 |
| Mexico | 750 | 8,710 | 9,460 |
| India | 581 | 5,062 | 5,642 |

<http://www.hsbc.com/news-and-insight/2014/international-education>

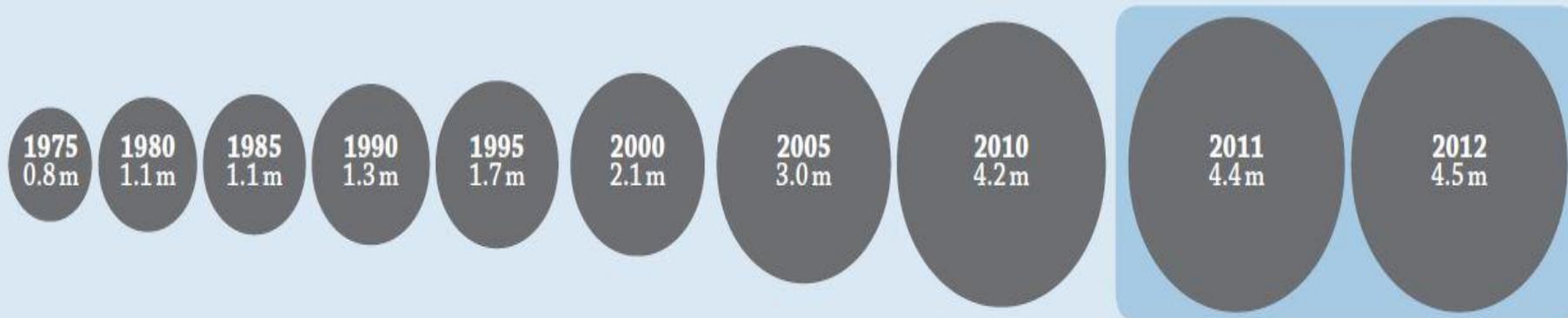


世界の留学生市場の規模と特質—国際的な学生移動(留学)

- 国際移動する学生数の推計(OECD)
- 1975年 80万人 2000年 210万人 2012年 430万人
- 2020年 580万人 (2025年 710万人)

Box C4.1. Long-term growth in the number of students enrolled outside their country of citizenship

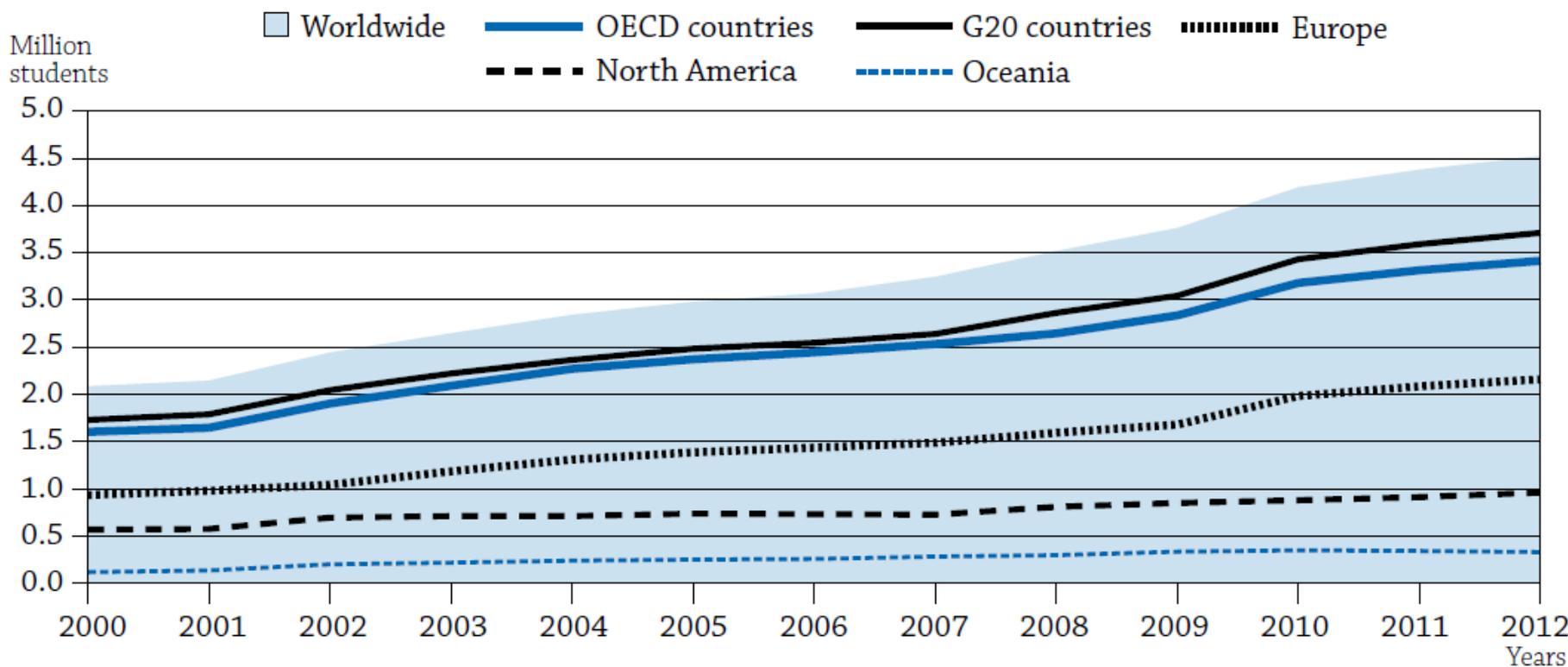
Growth in internationalisation of tertiary education (1975-2012, in millions)



Source: OECD and UNESCO Institute for Statistics.

海外の大学等で学ぶ学生数(OECD)

Chart C4.1. Evolution in the number of students enrolled outside their country of citizenship, by region of destination (2000 to 2012)



Source: OECD. Table C4.6. See Annex 3 for notes (www.oecd.org/edu/eag.htm).

StatLink  <http://dx.doi.org/10.1787/888933118789>



世界の留学生市場の規模と特質—各国の留学生獲得目標・推計値

- 2025年 約700万人 (IDP Education Australia, *Global Students Mobility 2025*, 2002)
(2020年約580万人)
- 主要英語国(米、英、加、豪、NZ)に集中してくる留学生(主要高等教育輸出国)
 - 2003年・・・約100万人(2000年約200万人の50%)
 - 2020年・・・約260万人(約580万人の45%を占める)
- 他方で英語圏(主要国)の留学生受入れシェアの減少傾向が指摘される
 - 留学生の地域化 (Regionalization)と新興国の成長現象
 - 中国とマレーシアの台頭、エジプト、サウジアラビア、UAEの拡大
 - 多くの留学生が自国に近い「近隣留学」を好む傾向
 - UAEはアラブの留学生を英国より多く受け入れるようになった。
 - 中国の大学の世界大学トップランキング入りによる中国人学生が中国の大学を選ぶ
 - 韓国も受入れに熱心
 - 南アフリカ(サブサハラ中心国)、アラブ圏、北東アジア圏、ASEANなど



世界の留学生市場の規模と特質—各国の留学生獲得目標・推計値

- 各国の留学生増加政策・推計

- 日本・・・2020年30万人(世界の5.1%)
- 韓国・・・2020年20万人(世界の3.4%)
- 中国・・・2020年50万人(世界の8.6%)

- 豪州・・・2025年56万人(国内、オフショアも含めると99万人程度となる)(IDP, 2002)
- カナダ・・・2022年45万人(2012年26万人)
- ドイツ・・・2020年35万人(2013年30万人)
- 英国・・・2020年87万人(世界の14%)(*Vision 2020*より)

(但し英国は移民制限政策により、ここ数年、留学生受入れが減少傾向にある。国も留学生受入れ奨励策を講じていない。国際競争力(教育の輸出産業としても、また大学の収入の12%以上を留学生の授業料に依存していることから、大学等にとって大きな問題(危機)となっている。Universities UK, *International Students in Higher Education: the UK and Its Competition*, 2014.)

各国の国際競争力を高める工夫が求められている。高等教育はますます急激な国際競争に突入しているという認識が共有されてきた。



“貿易可能な“国境を超える高等教育サービスの4モード(高等教育のグローバル化の展開)－第3モード「オフショア・プログラム」

- 海外分校(ブランチ・キャンパス)設置など(輸出国と輸入国)
 - 海外大学の日本校のパターン
 - 日本の大学の海外校・海外キャンパスのパターン

- 各国のブランチ・キャンパス提供調査(輸出)(162ブランチ)

- 米国……………78(48%)
- 豪州……………14(8%)
- イギリス………13(8%)
- フランス………11(6%)
- インド……………11(6%)
- その他……………35(21%)

- ブランチ・キャンパス誘致国調査(輸入)(162ブランチ)

- UAE……………40(25%)
- 中国……………15(9%)
- シンガポール・12(7%)
- カタール……………9(6%)
- その他……………76(47%)

Education as an Export: the Globalization of U.S. Higher Education and the Emergence of the Overseas Branch Campus, J.P. Moerganより紹介。



“貿易可能な“国境を超える高等教育サービスの4モード(高等教育のグローバル化の展開)―第3モード「オフショア・プログラム」

◆**オーストラリアのオフショアプログラム**: (2012～2014調査 (Universities Australia)) 821件のプログラム(6か月から5年のプログラム、多くは学士課程プログラム)

- 遠隔教育によるオフショアプログラムを提供する大学が10大学
- 多くのプログラムを展開している大学は、シドニー大学、USQ, Monash, Curtis, LaTrobeなどとなっている。
- “Joint Degree”型プログラムを提供する大学として、シドニー大学、Monash、LaTrobe大学などがあり、全国で12大学がJDを提供している。
- オーストラリアのオフショアプログラムが提供される国は、マレーシア(24%)、シンガポール(20%)、中国(11%)、香港(11%)、その他となっている。その他としては、UAE、ベトナム、南アフリカ、ブータンがある。

(Universities Australia, *Offshore Programs of Australian Universities*, 2014.)

◆**オフショアプログラム批判と難しさ**

- 学位のマクドナルド型フランチャイズ化(USAのみならず豪州や英国のプログラムも)
- 本校の教授が配置されないで現地で雇用される教授(local facilitators)が教えるという問題
- 本校の教授は2週間の集中講義(年に一度)に出張する。それでも問題が:
 - 1回目は“Fun”, 2回目は“Problem”, 3回目は“Impossible”の問題
- コスト面で負担過重
- 遠隔教育を組み合わせるプログラム(コースワークを遠隔教育を活用して)
 - 本校の教授がシラバス、授業の進捗、試験などを管理すると言われているが、教育の質に対する疑問が生じる(授業料も高い)
 - やがて時がたつと優秀な学生が入学してこなくなるケース(中国のフランチャイズに見られる傾向)



グローバル化する社会の各国の大学の圧力と対応戦略—米国

◆ 米国の大学が直面する危機・圧力を分析

- 国等の財政支援(補助金や予算)の減少
- 学位の価値に関する国民の信頼の低下(不信感)
- 大学間の過激な競争
- 急速な技術革新の影響
- 欧米の国内の高等教育需要の低下(頭打ち現象)・・・世界市場の拡大(インドの学生層は2020年には世界の25%を占める。中国人も。)
- 世界の市場に対応した持続可能なビジネスモデルを模索・・・財務基盤の安定化・・・私立だけでなく州立大学も予算カットで国際対応を余儀なくされている
- 「プレステージ」「名声(評判)」「新メディア」「国際競争力」「ランキング」がキーワード

◆ 米国の英国・豪州・カナダとの留学生獲得競争・・・「教育の質の転換」を提言

- 英語を優位性として競争することはない
- 米国型システムの有効性と価値による競争・・・メインターゲットはインド人、中国人(全体の40%を占める)?
- Webサイトの開発・充実・SNSの活用(候補学生へのコンタクト)
- 国際学生のニーズに応える教育の質の転換・・・「①安全で歓迎的なキャンパス」「②人間的・個人的繋がり(絆)」「③グローバルの観点から豊かなカリキュラム」を重視する国際学生への対応

◆ 米国の戦略と挑戦—世界の市場にオンラインで世界水準のアメリカ型システムによる高等教育の機会(ビジネスとして)を提供(大学による教育の輸出)(動向)

- AffordabilityとAccessibilityの溝(ギャップ)を埋める仕組み
- 伝統的なキャンパスがオンライン高等教育機会にとってかわられることはない
- 2012年以降拡大するMOOC戦略(将来有力な仕組み)(世界で600万人が履修しているという)
 - edX(MIT/ハーバード:30大学が参加) Coursera,(スタンフォード:100大学が参加)Udacity(スタンフォード:30大学が参加)
 - 日本にはJMOCの設置したものがある(日本語で授業)
 - 問題は山積(受講生は多いがコースを修了できる学生はわずか、という問題。あるいは受講生の多くがすでに大学学位保持者であることの意味(ペンシルバニア大学2013年調査))
 - 伝統的なキャンパスのプログラムの一部に組み込む形での活用に活路を・・・授業料を3分の1にすることが可能(MBAプログラム)
 - MOOCsの世界ランキングができればどうなるか
 - MOOCsの評価(たとえば学生満足度、ドロップアウト率、就職率などで評価されれば伝統的な大学と競争できるか?)
- 英国の公開大学(OU)がMOOC(Futurelearn)を開発(オックスフォード、ケンブリッジ、インペリアルカレッジなど)・・・世界の市場を巡る競争が激化
 - OUのチューターによる指導体制は極めて整備され、充実しているので、教育の質において高い競争力を持つ可能性がある。
 - CNNかBBCか、いずれが勝つか?

(出典)高等教育のグローバルイゼーション会議(2014年3月)の概要報告より紹介。(http://www.globalizationofhighereducation.com/about)

グローバル化する社会の各国の大学の圧力と対応戦略—英国

◆ 英国の留学生獲得競争戦略

- 他国の政府等は留学生獲得について戦略的に取組み、留学生を受け入れるという教育輸出による経済的効果に敏感になっている。英国の相対的競争力の低下。
- 国の移民政策(制限的政策)の改正
 - 長期移民入国を増やす
 - 学士課程から大学院進学可能に
 - インターンシップなど就労を可能に
- 留学生の授業料についてフルコスト負担原則(イギリス人の税金は投入しない)をどうするか？
- 英国の教育の魅力作戦
 - 留学先国として英国は徐々に魅力を失いつつあるという。アメリカ、カナダに負けている。
 - レピュテーション(評判)(他国との競争的評価)
 - 留学生に歓迎的な国であるかどうか(Welcoming country)
 - 留学生の満足度が高い
 - International Students Barometerによると90%が英国の経験に満足。86%が友人に英国留学を勧めると回答。英国の受け入れ態勢に89%が満足。
- 英語ビジネス(BCの事業でも)
- アフリカなどの留学生市場のニーズにあったプログラムを弾力的に開発・提供する教育体制
- 留学コストでの競争力の見直し
- Science without Borders (SwB)事業への参加の成功例:ブラジル政府が2012年から4年間で10万人以上の学部学生を派遣する事業の中で、英国は36カ国の受け入れ国の中で2番目に人気があり、8000人以上を受け入れている。
- 最終的には「働く権利」の有無の問題になりそう(Post-study Work Opportunities)

(出典:Universities UK, International Students in Higher Education: the UK and Its Competition, 2014)

◆ (再掲)英国の公開大学(OU)がMOOC(Futurelearn)を開設

- ・オックスフォード、ケンブリッジ、インペリアルカレッジなど・・・世界の市場を巡る競争が激化
- ・OUのチューターによる指導体制は極めて整備され、充実しているので、教育の質において高い競争力を持つ可能性がある。



追加資料一英国のTony Blair元首相の言葉(1999年)

“Whenever I travel I meet **international leaders** who have studied in Britain. Dynamic, intelligent people who choose Britain **because we offer high-quality education and training.**” (世界中に英国で学んだ国際的リーダーがいる)

“This is good news for the UK. People who are educated here have a lasting tie to our country. **They promote Britain in the world, helping our trade and democracy.**” (彼らは英国を世界でプロモートしてくれている。貿易と民主主義で)

Cited from *Vision 2020, Forecasting international student mobility: a UK perspective*, Project Team, British Council etc.



グローバル化する社会の各国の大学の圧力と対応戦略—欧州(EU)・アジア太平洋地域(UMAP)・豪州

◆ Europe・・・域内Mobility重視

- ERASMUS
 - ボローニアプロセス・・・共通化(資格・制度など)
 - 学生のMobility・・・他国の文化理解、単位互換、教員交流、ジョイント・ディグリーの開発・普及
 - ヨーロッパ高等教育圏(European HE Area)とヨーロッパDimension(ヨーロッパ市民)
- ERASMUS-MUNDUS(米国、カナダ、豪州、中国、日本)
 - ジョイント・ディグリー・プログラムの開発と展開
 - JDのパートナー大学制度(学位授与の問題)
- ERASMUS+
 - 日本の高等教育機関もEUの高等教育機関と連携し、修士課程のジョイントディグリー、短期留学プログラムに参加できます(応募締切は2015年3月4日です)。ジャン・モネEU研究コースおよびセンターにも応募することができます(応募締切は2015年3月26日です)。(駐日欧州連合代表部HP参照(<http://www.euinjapan.jp/programme/erasmus/#erasmus>))

◆ Asia and the Pacific (UMAP)・・・域内Mobility重視とオーストラリアの戦略

- アジア・太平洋地域における大学間交流の促進(University Mobility in Asia and the Pacific)
- オーストラリアの戦略・・・アジアの国の大学の門戸の開放(オーストラリア政府)
 - UMAPを活用したアジア諸国におけるオーストラリア学生の受入体制の整備を図る
 - 単位互換スキームと域内交流でアジアの留学生を確保
 - 単位互換制度の開発(ECTSモデルによりUCTSを開発・実施)
- UMAP及びUCTS普及のための奨学金政策の展開(オーストラリア、日本、タイ、台湾など)
- 日本の戦略
 - 国際事務局(日本、タイ、台湾・・・)(国際機関化)
 - UMAP奨学金制度の設置(優先)
 - 短期学生交流・・・ジョイント・スタディー・プログラム開発
 - 超短期学生交流の開発(サマープログラムの開発と展開)
 - 日本からは99大学がリストに登録(参加大学)



グローバル化する社会の各国の大学の圧力と対応戦略 —ASEANとSEMEO

◆ ASEAN共同体2015・・・Mobility重視(極度の多様性をどう調和・調整するか)及び「アセアンネス」の追求

- AUN(1995~)(2008年にASEANの分野別大臣機関の一つ)・・・ネットワークの強化、共同研究・教育等の促進、研究者交流・協力支援、政策提言団体。
 - 加盟国(10カ国)、加盟大学(30リーディング大学)
 - 学生交流と単位互換(Asean Credit Transfer System(2009~))
 - (ASEAN Brand化)
 - 英語で行われる授業コースが14,000以上
 - 学期(授業)に拘束されない単位制度・・・調査研究でも
 - AUNは質を重視し、メンバーを限定。
 - オンライン登録制度
 - AUNと日本の世界展開力強化プログラム(Re-Inventing Japan)
 - AUNとEU(EU SHARE)プログラム(2015~)
- 中心は タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、ブルネイ、フィリピン
- ASEAN+3・・・ACTS(評価体系強制、互換計算・質保証は各大学に任せる)等を日本・中国・韓国にも適用する構想(日本は2013年ACTSを使用する(2017年までに)ことを受諾)
- アセアン「標準時」創設を検討(2015年1月28日非公式外相会議)・・・アセアンはますます「フラット化」する



◆ SEAMEO-RIHED・・・単位制度、質保証、Mobility

- GMS(CLM諸国の支援)
- CLMVの諸国の発展の支援
- AIMS(アジアの学生のMobility)・・・M-I-Tプログラム、UCTSを使用、分野別拠点学生交流
 - マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本(各25名支援・交流)
- UMAPは域内の大学全てを対象(ボランティア参加)(政府等もメンバー)

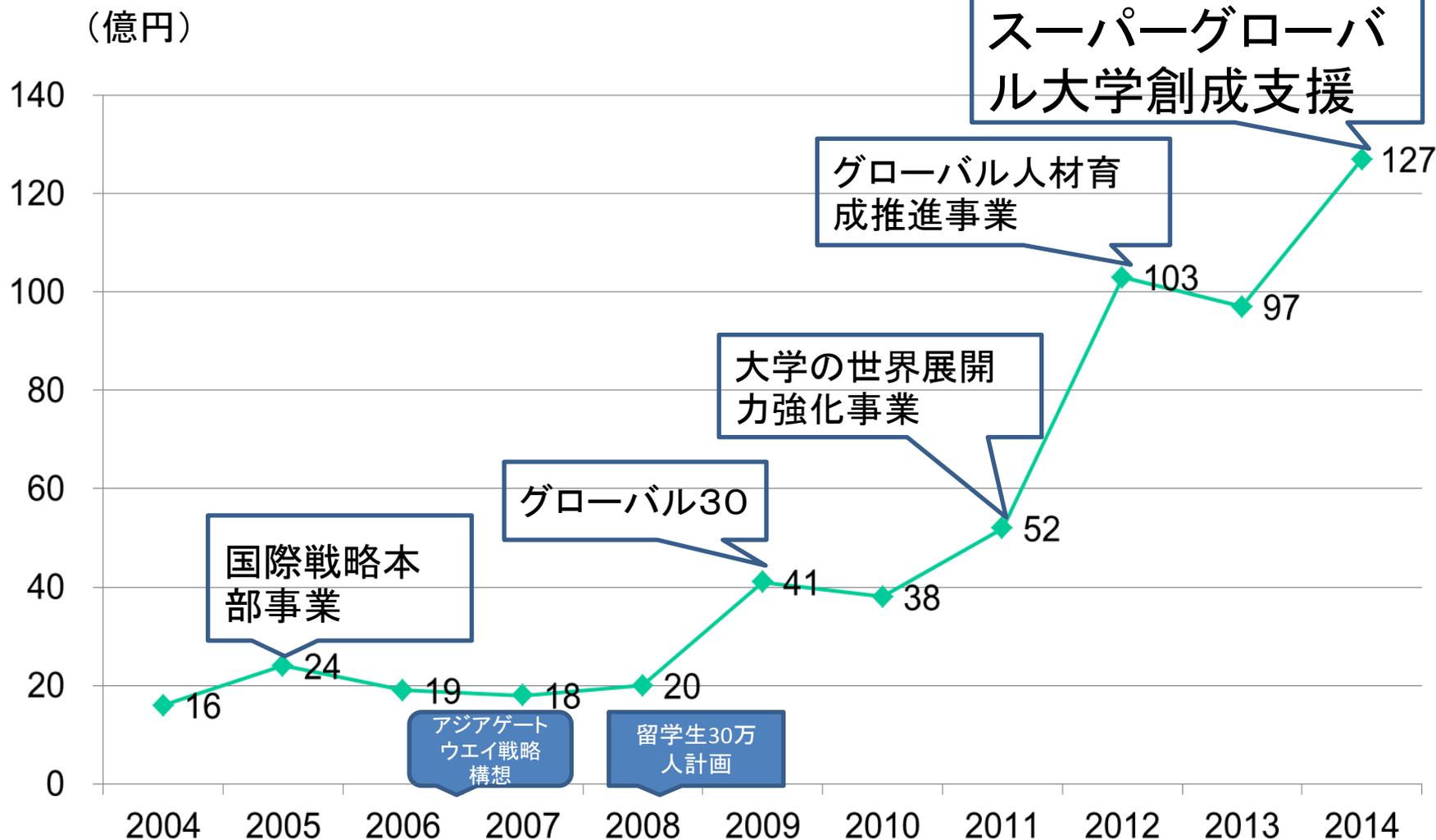


グローバル化する社会の各国の大学の圧力と対応戦略 —日本の政策と戦略

- **国費留学生政策・私費留学生支援政策—学位取得プログラム中心(大学院、学部等)**
 - ODAから市場へ
 - 研究留学、学部留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生など
 - 大使館推薦と大学推薦
 - 国立大学中心の政策・・・授業料負担(私学は高額)
 - 予備教育プログラム
 - 留学生センターの設置
 - 学習奨励費
- **短期留学制度・超短期留学プログラム(国立・公立・私立)**
 - 米国の学生のための英語による短期留学プログラム(米国人学生のための奨学金を準備)(日米留学生摩擦)
 - 短期交換留学プログラムの開発(授業料不徴収)
 - 超短期留学・研修
- **大学の国際化政策・グローバル人材育成政策(国・公・私)の競争的支援)**
 - 国際戦略本部事業
 - (国際化戦略を初めて導入する画期的事業、平成17年度～平成21年度(5年間)、20大学採択)
 - アジアゲートウェイ戦略構想(平成19年)
 - http://www.kantei.go.jp/jp/singi/asia/kondankai/daigaku/ninomiya_1.pdf参照。
 - 二宮:アジア・ゲートウェイ構想について(世界市場参入と(シェア論を提言)
 - 留学生30万人計画(2020年をターゲットイヤーに)
 - 大学の国際ネットワーク形成事業(G30)
 - 世界展開力強化事業
 - グローバル人材育成事業
 - スーパーグローバル大学創成事業



日本の政策と戦略(大学の国際化等施策)



背景・趣旨

- 世界の有力大学間の競争が激化する中、日本の大学の国際化は不十分。特に、留学生比率や外国人教員比率は低調。
- 優秀な外国人学生や外国人教員の受入れを促進することにより、我が国の大学の国際化を推進することが必要。
- 国際化の拠点としての総合的な体制整備を図るとともに、産業界との連携、拠点大学間のネットワーク化を通じて、教育資源や成果の共有化を図り、質の高い外国人学生の戦略的受入を推進する取組を重点支援。

採択大学

東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、慶應義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学



主な取組

- 英語による授業で卒業できる学位プログラムの開設
- 英語による質の高い授業を行うための国際公募による外国人教員等の配置
- 「海外大学共同利用事務所」を通じた日本留学に関するワンストップサービスの提供
→ **7カ国8カ所**
 - 東北大学 ロシア/モスクワ
 - 筑波大学 チュニジア/チュニス
 - 東京大学 インド/バンガロール
 - 名古屋大学 ウズベキスタン/タシセント
 - 京都大学 ベトナム/ハノイ
 - 九州大学 エジプト/カイロ
 - 早稲田大学 ドイツ/ボン
 - 立命館大学 インド/ニューデリー
- 留学生に対する専門スタッフによる生活支援、就職支援(企業見学、ビジネスマナー研修等)
- 経済団体との協力(産学連携フォーラム、グローバル人材育成スカラシップ等)、講師派遣

13大学における成果

【英語コース】

2009年:学部 0、大学院 7コース

→ **学部32、大学院123コース(2012年度末)**

外国人教員数 2008年:2,374人(全体の5.6%)

→ **2012年度末 3,097人に増加(全体の7%)**
(1.8倍)

【留学生の受入】

2008年:23,083人(全体の6.8%)

→ **2012年度末:28,357人(全体の8.3%)** (1.4倍) 特に上智、明治、慶応、同志社の伸びが大きい

震災以降、日本全体の留学生受入れ数は減少

一方、**13大学においては、着実に留学生数が増加。**

「Global 30」のウェブサイトには、累計43万人が訪問
(2010.1-2012.12)

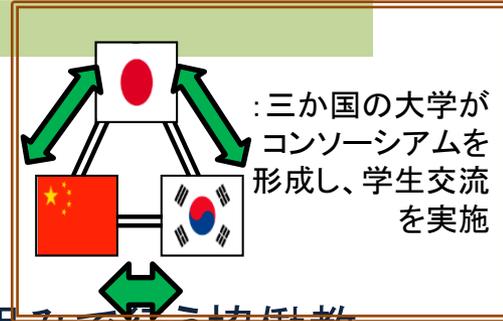
<G30留学フェア(インドネシア) 2013.1>
来場者数:2,400人

<G30留学フェア(シンガポール) 2012.5>
来場者数:2,200人

世界展開力強化事業

◆キャンパス・アジア中核拠点形成事業

- “CAMPUS Asia“
- 一日本中韓政府が共同で策定するガイドラインに沿って、
- 単位相互認定や成績管理、学位授与等を共通的な枠組みで行う協働教育プログラム
- 3カ国で学ぶ学生



◆米国大学等との協働教育創成支援

- 米国等の大学との教養教育の共通基盤の育成、E-learningの活用による協働の専門教育の開発、ダブル・ディグリープログラムの拡充等、新たな学びのスタイルによる協働教育プログラム

◆ASEAN諸国等との大学間交流形成支援

- ASEAN諸国等の大学との高等教育制度の相違を超えた、質保証の共通フレームワークの形成や教育内容の可視化等、アジアにおける先導的なモデルとなる大学間交流プログラム
- インド・ロシア、中南米・トルコ……>世界展開？

◆SEMEO (AIMS) やEUとの戦略的高等教育連携支援

- 欧州連合、東南アジア教育大臣機構等との共同による国際的な高等教育連携枠組みのもとでの戦略的な教育連携プログラム



大学の世界展開力強化事業

目的

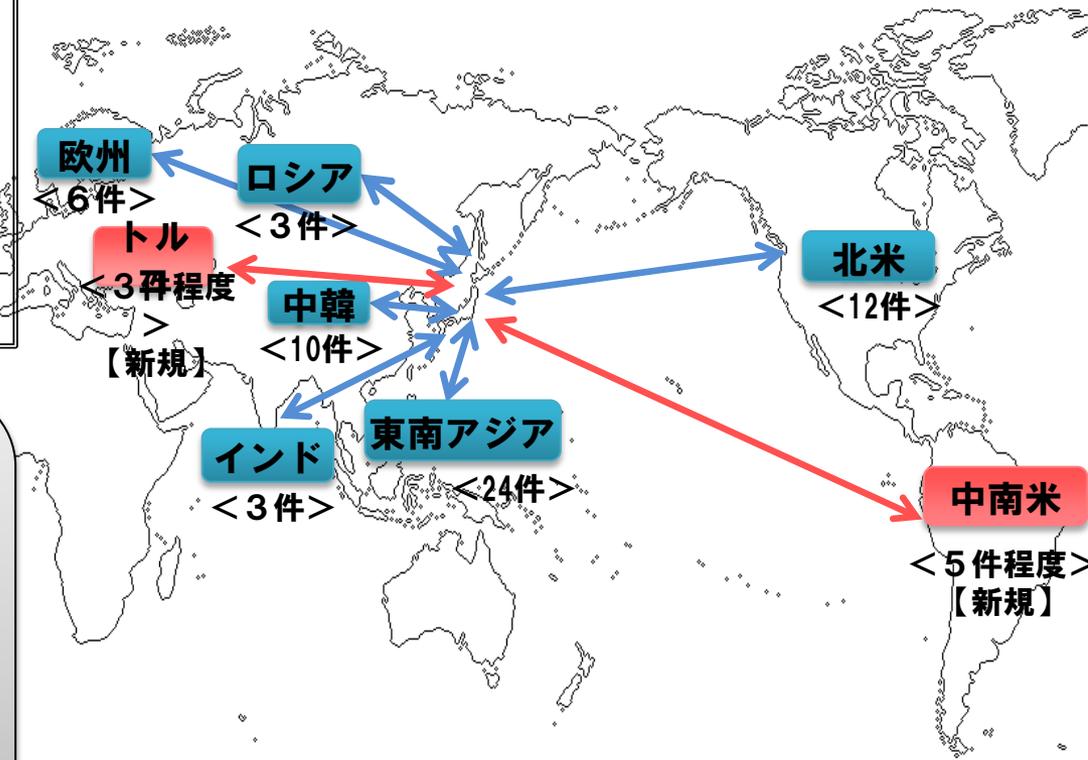
世界的に学生の交流規模が拡大する中において、我が国にとって重要な国・地域の大学と質保証を伴った連携・学生交流を戦略的に進め、国際的通用性を備えた質の高い教育を実現するとともに、我が国の大学教育のグローバル展開力を強化する。

概要

地域毎の高等教育制度の相違を超え、単位の相互認定や成績管理、学位授与等を行う教育交流プログラムの開発・実施を行う大学を支援。これら質の保証を伴ったプログラムにより、日本人学生の海外派遣と外国人学生の受入を促進。

取組例

- ✓先導的・大学間交流モデルの開発
- ✓高等教育制度の相違を超えた質保証の共通フレームワークの形成
- ✓単位の相互認定、共通の成績管理の実施
- ✓学修成果や教育内容の可視化



【背景及び目的】

経済社会のグローバル化が進む中、我が国が今後も世界に伍して発展していくには、大学の国際競争力向上と、多様な場でグローバルに活躍できる人材の育成が不可欠。そのため、徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、我が国高等教育の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図る。

世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための新たな取組や、人事・教務システムの改革、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学を重点支援。

○**トップ型** (13大学)

世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援

(取組例)

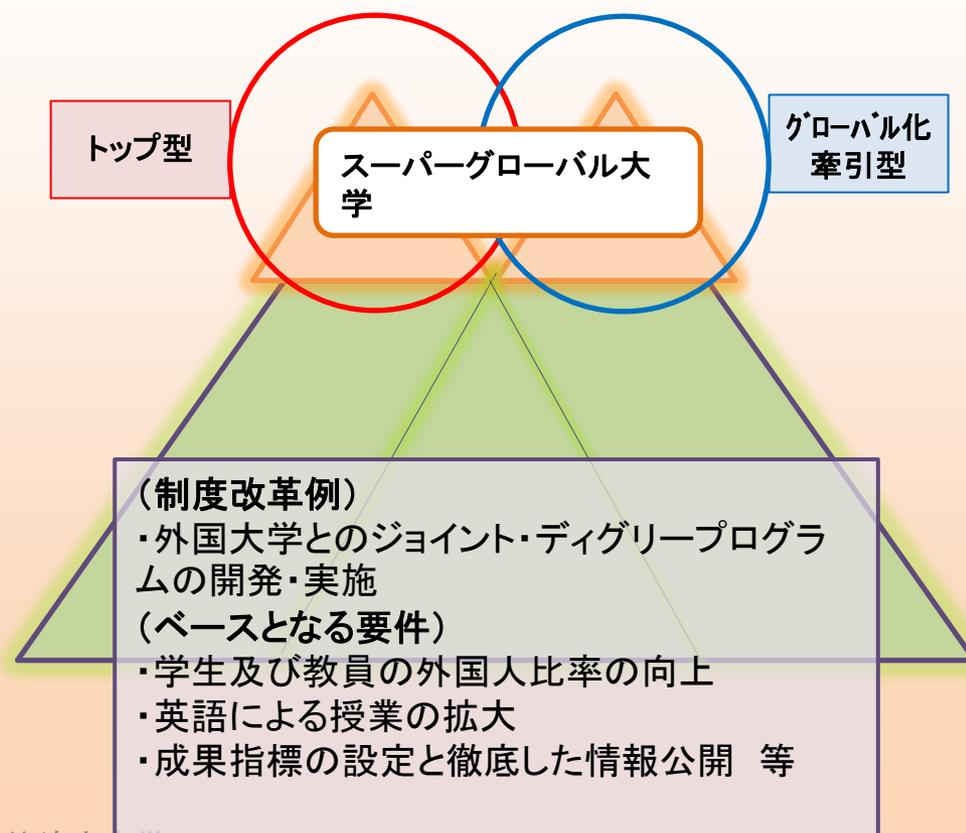
海外大学のユニット誘致による領域横断型共同カリキュラムの構築、優秀な教員や学生が集う環境整備、海外展開等

○**グローバル化牽引型** (30件)

これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学を支援

(取組例)

海外大学との先駆的教育連携、大学教育のグローバル化モデルの構築、世界基準の教育展開等



2015年から:

『教育再生会議第7次提言』平成(27年5月14日)に見る喫緊の重点施策

- 国、大学等は、海外の大学へ進学する学生も含め、**日本人学生の留学**を一層促進するとともに、**優秀な外国人留学生の受入れ促進**のため、大学等は、留学生受入れ方針を**アドミッションポリシー**に位置づけることなどにより明確化する。また、短期留学を推進しつつ、将来的な学位取得目的の留学を増やすといった**戦略的な受入れ拡大**を図る。こうした受入れ拡大を図るに当たって、地域の状況を踏まえつつ、民間施設や公的機関が有する施設等の活用を含め、**宿舎の確保**のための施策を一層推進する。
- また、大学においては、教育方法の革新とともに、教育プログラムや組織の改革、留学生交流の推進等により、**世界に通用する教育体制**を確立することが必要です。そのためには、**大学教員の意識改革**も不可欠です。小・中・高等学校から大学までを通じて、課題解決に向けた主体的・協働的で、能動的な学び(**アクティブ・ラーニング**)へと授業を革新し、学びの質を高め、その深まりを重視することが必要です。
- グローバル人材の育成を志向する大学においては、日本に対する深い理解の上に立ちつつ、海外の連携校との比較等も行いながら、国際競争力のあるカリキュラムの編成など**国際通用性の高い教務システム**を構築する。また、海外大学との**共同学位プログラム**など学生が国内外の大学を行き来しながら学べる環境を整備する。
- 国は、こうした大学の取組を**財政的にも支援**する。

『教育再生会議第7次提言』—日本人学生の派遣と留学生の受入れ・世界的通用性の高い教育体制の確立(戦略構想)

- 日本人学生の海外派遣・海外留学(教育の輸入)
- 外国人留学生の獲得施策(教育の輸出)
 - 留学生受入れ方針(アドミッション・ポリシー)
 - 内外人を問わず、「優秀な学生を受け入れる」
 - 世界で日本語を学ぶ学生の積極的受入れ方針
 - 英語による授業の提供での優秀な学生の受入(留学生とSGHなどの卒業生)
 - 留学生の戦略的受入れ(国際化戦略)
 - 短期留学生の受入れ…英語のコースと日本語・日本文化のコースなど夏季コース
 - 4学期制の工夫(受入れと派遣)
 - 単位互換と学修計画の重要性(交換留学など)
 - 学位取得留学生の受入れ
 - 留学生宿舎の確保
 - 民間施設の活用…シェアハウス(空や対策)
 - 公的な施設の活用
- 世界に通用する教育体制と大学教員の意識改革…アクティブ・ラーニングなど
＜参考＞比治山大学のアクティブ・ラーニングと学修成果可視化モデルの開発(平成26年度～大学教育再生加速化事業)
- グローバル人材の育成…国際的通用性の高いカリキュラムや教学システムや海外の大学との共同学位(Joint degree)の開発と提供…JDの制度とガイドライン、設置審



4×3の比治山力の育成

建学の精神 悠久不滅の生命の理想に向かって精進する



4×3の比治山力

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>「学びの主体者」としての自分を実感し、自己肯定感を持って主体的に生きる力</p> <p>自立</p> <p>↑↓</p> <p>①情報収集力 ②論理的思考力 ③課題設定力</p> | <p>他者への理解と広い視野をもって生きる力</p> <p>想像</p> <p>↑↓</p> <p>④発想力 ⑤企画・計画力 ⑥傾聴・受信力</p> | <p>他者と共動し、自分の役割を果たして生きる力</p> <p>共生</p> <p>↑↓</p> <p>⑦コミュニケーション力 ⑧チームワーク力 ⑨自己省察力</p> | <p>既存概念にとらわれず、新たな価値を生み出す力</p> <p>創造</p> <p>↑↓</p> <p>⑩創造・表現力 ⑪プレゼンテーション力 ⑫イノベーション力</p> |
| <p>課題設定に必要な情報を収集・選択・整理することができる</p> <p>情報や知識、体験を比較・関連づけ、論理的に把握することができる</p> <p>修得した教養や知識・技能をもとに、課題を設定することができる</p> | <p>自己内対話をし、課題意識を広げたり深めたりすることができる</p> <p>課題解決について見通しをもち、企画・計画をたてることができる</p> <p>相手や他者の考えを正確に受け取り、自身の視野や思考を広げたり深めたりすることができる</p> | <p>他者との意見交換を通して、多角的な視点を持って適切な情報受信・情報発信をすることができる</p> <p>適切なリーダーシップ・フォロアーズシップを発揮し、グループの推進力として貢献することができる</p> <p>他者視点を獲得し、他者との共動を通して自分を振り返り、新しい思考や概念を構築することができる</p> | <p>自身やチームの設定した課題解決を実践し、レポートや論文、作品などの形として表現することができる</p> <p>課題や場に最も適した表現方法を選択し、活用することができる</p> <p>社会や地域の課題を発見し、その課題解決に向けて行動することができる</p> |

比治山大学での学びの総体

コア・アクティブラーニング科目群全体

コア・アクティブラーニング科目群 各科目の到達目標(知識・理解/技能/態度/志向性)

基礎学力

ベーシック・リメディアル
学習サポート

「コアAL科目」を体系的に

言語文化学科 日本語文化コース コア科目一覧表【新カリ】

| 通しNo. | 科目名 | セメスター | 自立 | | | | 想像 | | | 共生 | | | 創造 | | | |
|-------|------------|-------|-------|--------|-------|-----|--------|--------|------------|---------|--------|--------|-----------|----------|---|---|
| | | | 情報収集力 | 論理的思考力 | 課題設定力 | 発想力 | 企画・計画力 | 観察・受容力 | コミュニケーション力 | チームワーク力 | 自己管理能力 | 創造・表現力 | コラボレーション力 | イノベーション力 | | |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | |
| 1 | 言語文化論 | 1 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 2 | 日本語学入門 | 1 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 3 | 日本文学入門 | 1 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 4 | 日本歴史・文化入門 | 1 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 5 | 日本文学講読 | 1 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | |
| 6 | 日本文化史 I | 1 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | |
| 7 | 日本文化史 II | 2 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | |
| 8 | 日本語概論 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 9 | 日本文学概論 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 10 | 日本歴史・文化概論 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 11 | 日本語研究 I | 3 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 12 | 日本語研究 II | 4 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 13 | 日本文学研究 I | 3 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 14 | 日本文学研究 II | 4 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 15 | 地域の文化と歴史 | 3 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 16 | 基礎ゼミナール I | 3 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| 17 | 基礎ゼミナール II | 4 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| 18 | 日本語の歴史 | 5 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | |
| 19 | 日本文学の歴史 | 5 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | |
| 20 | 日本語学演習 | 5 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 21 | 日本文学演習 | 5 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 22 | 日本歴史・文化演習 | 5 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 23 | 日本語文化研修 | 5・6 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 24 | 特別研究 I | 6 | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 25 | 特別研究 II | 7 | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 26 | 特別研究 III | 8 | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 27 | 卒業論文 | 7・8 | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ |

12のスキル

コアAL科目

比治山型アクティブ・ラーニング

体験・行動型

フィールドワーク・
サービスラーニング・
実地体験・実験・
実習・演習・創作など

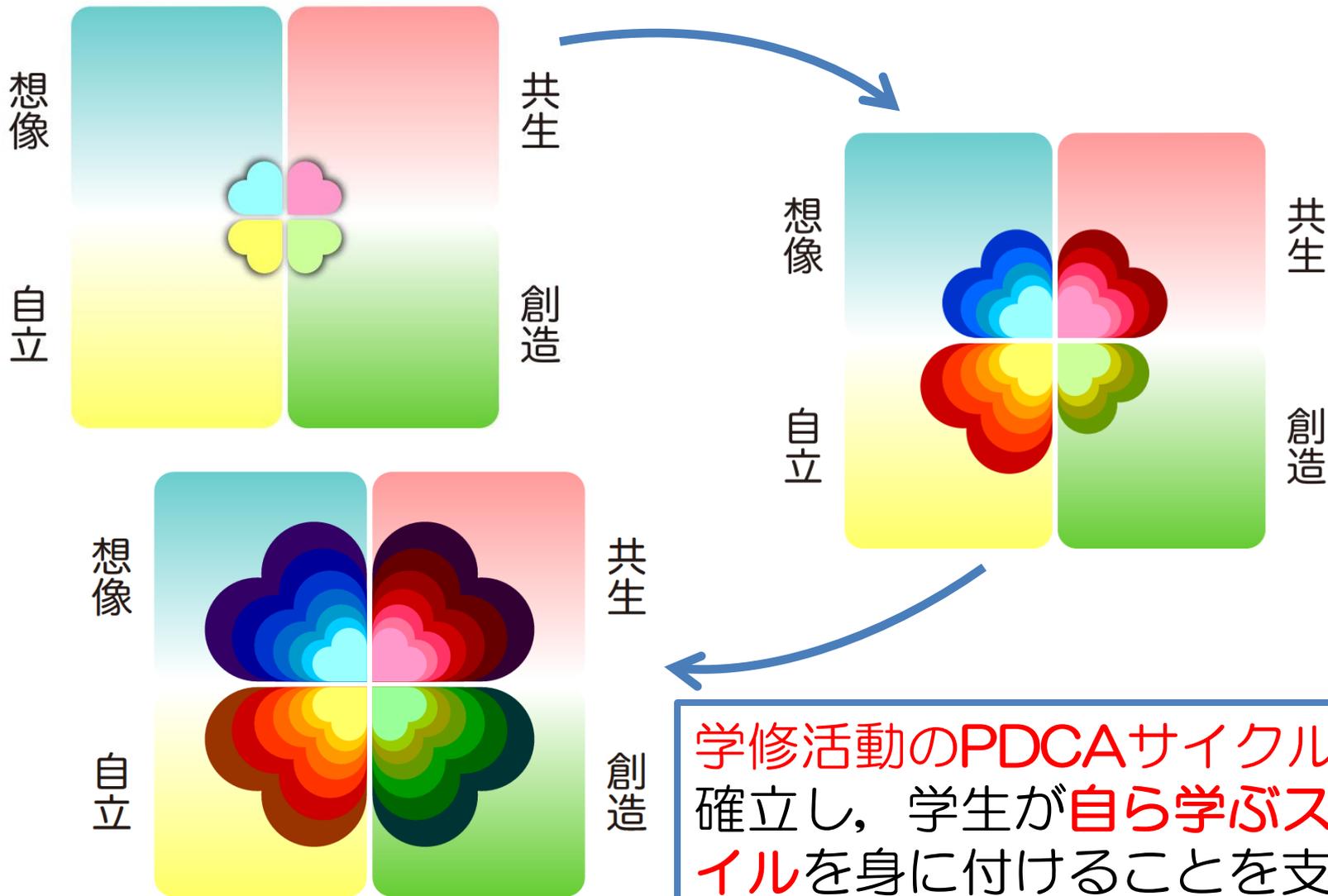
授業参加型

グループワーク・
コンセプトマップ・
マインドマップ・
KJ法・ジグソー法・
PBLなど

学ぶ意欲を引き出し、主体的に考えるきっかけを与える

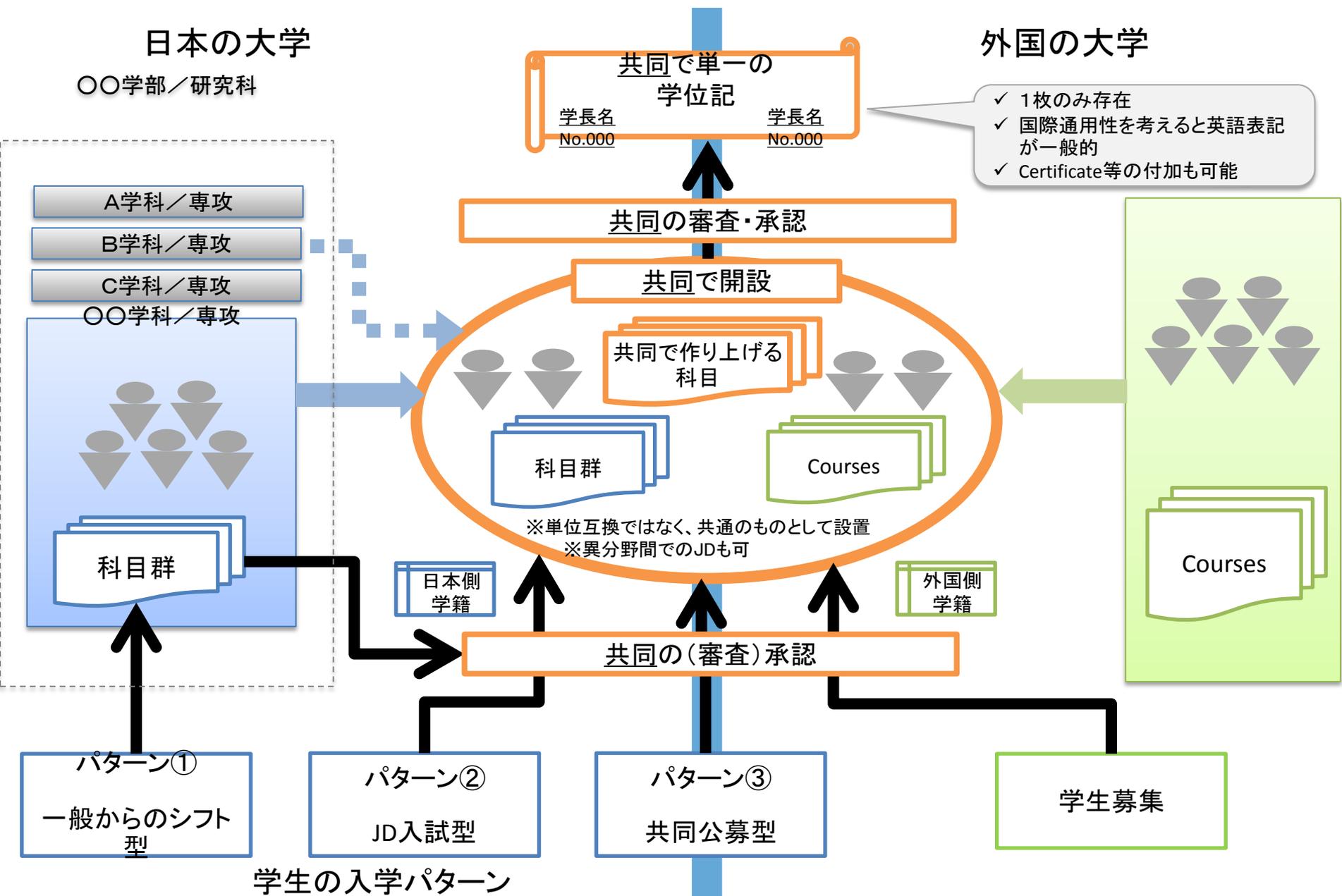
自ら考え、課題に取り組み、解決に向けて行動する力の育成
「4×3の比治山力」

4×3の比治山力の可視化



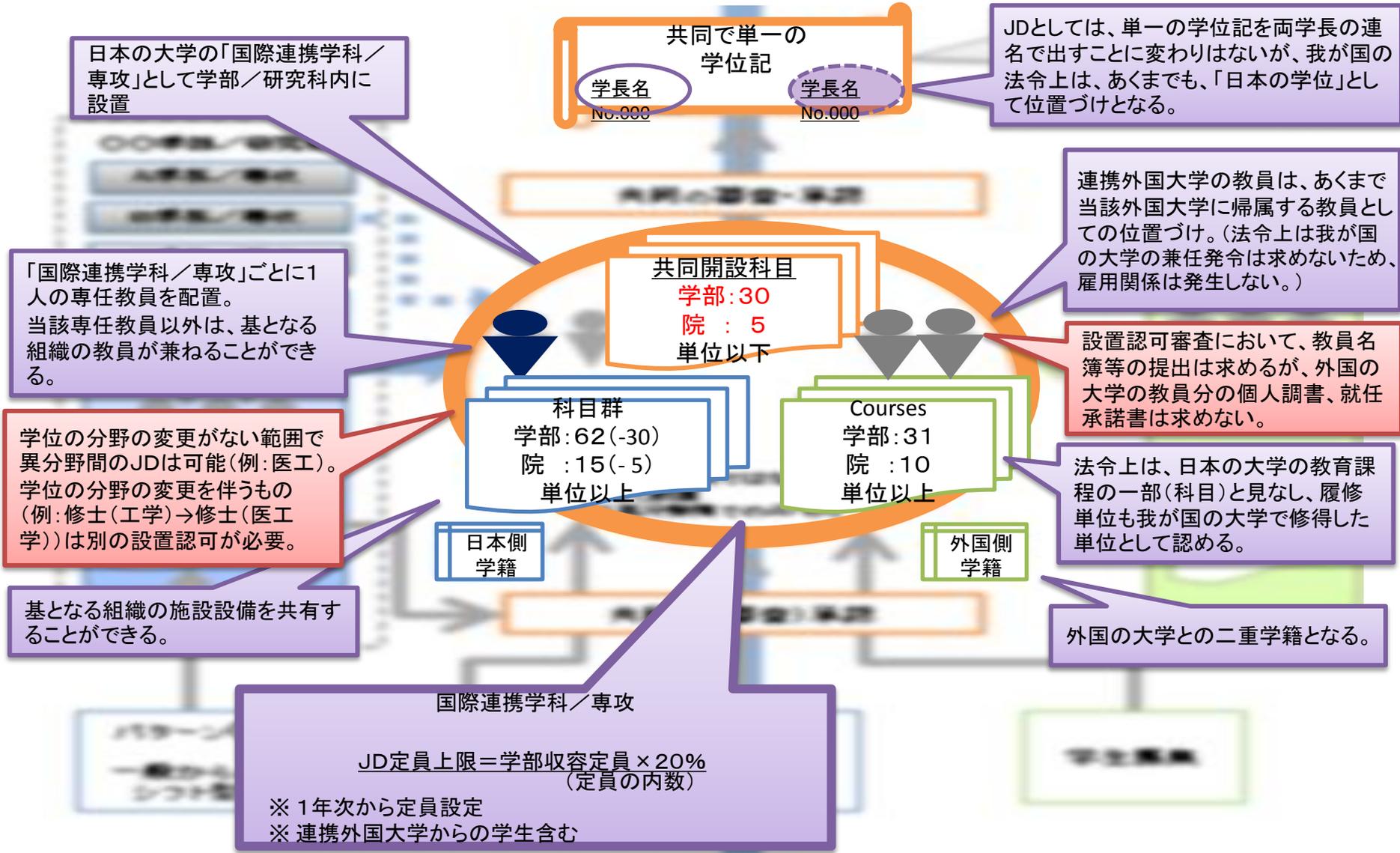
学修活動のPDCAサイクルを
確立し、学生が自ら学ぶスタ
イルを身に付けることを支援
します。

ジョイント・ディグリー: 想定運用パターン(文科省作成)



JDの想定運用パターン(我が国の法令上の整理)

我が国の法令上の整理では、法の「属地主義」に基づき、我が国の法の支配が及ぶ部分しか規定できない。その意味で、我が国の法令上の整理は、JDの仕組みの一側面を投影したものとなる。そのため、JDの仕組み全体を映し出すためには、法令上の整理のみならず、施行通知やガイドライン等による提示が必要となる。

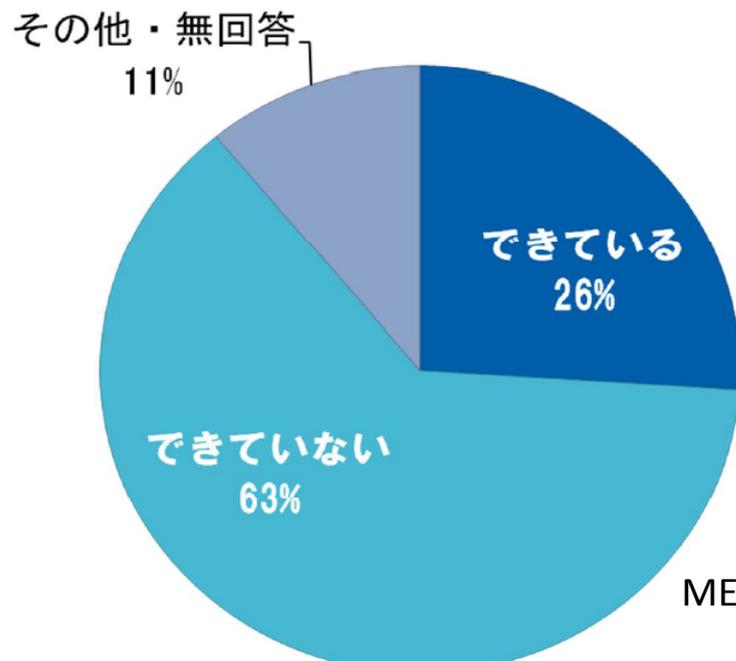


Ⅱ グローバル人材育成に挑戦する

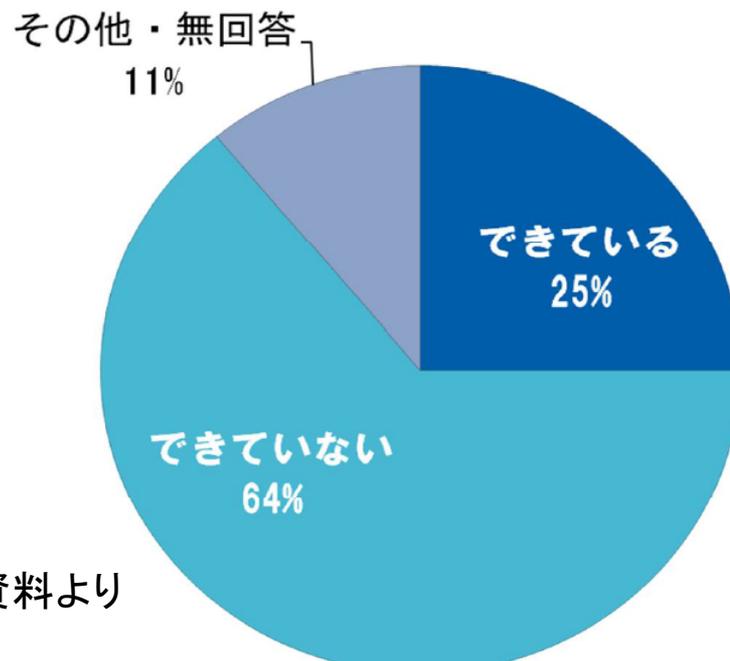
国民は、大学教育について現在の状況に満足していない

新聞社の世論調査では、日本の大学が、世界に通用する人材や企業、社会が求める人材を育てているかとの質問に6割を越える国民が否定的な回答

○ 世界に通用する人材を育てることができていると思うか



○ 企業や社会が求める人材を育てることができていると思うか



MEXT提供資料より



Ⅱ グローバル人材育成への挑戦ー1 求められるグローバル人材像

- ✓ 各省庁が大学に求める人間力等
 - ✓ 人間力(内閣府、平成15年)
 - ✓ 就業基礎力(厚生労働省、平成16年)
 - ✓ 社会人基礎力(経済産業省、平成18年)
 - ✓ 学士力(文部科学省、平成20年)
- ✓ 政府のグローバル人材論
 - ✓ 経済産業省・文部科学省「グローバル人材育成委員会」平成22年
 - ✓ 内閣府「グローバル人材育成推進会議・グローバル人材育成中間まとめ」平成23年
 - ✓ 産業競争力懇談会「グローバルなリーダー人材育成と活用研究会報告書」平成24年
- ✓ 経済界のグローバル人材論
 - ✓ 経団連「グローバル人材育成に向けた提言」平成23年
- ✓ 欧米の21世紀コンピテンシー論
 - ✓ 各国の21世紀スキル・コンピテンシー論
 - ✓ 米国におけるグローバル人材論(参考)
- ✓ 二宮(2003)「クロス・カルチュラル・コンピテンシー」の提言(「Cross-Cultural Competenceに関する基礎的研究」『教育学研究紀要』Vol.49、2003年)



2 政府・経済界のグローバル人材論

- ✓ 経済産業省・文部科学省 グローバル人材育成委員会(平成22年)
 - 社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)
 - 外国語コミュニケーション能力(世界で幅広く通用する英語でのコミュニケーション能力)
 - 異文化理解・活用力(異文化の差異、異文化への柔軟な対応、相乗効果)

- ✓ 内閣府「グローバル人材育成推進会議・グローバル人材育成中間まとめ」平成23年
 - 語学力
 - 主体性・積極性など
 - 異文化理解と日本人アイデンティティ

- ✓ 産業競争力懇談会「グローバルなリーダー人材育成と活用研究会報告書」平成24年
 - ✓ 海外活動を行う技術系の幹部やマネジメント人材(リーダー人材)育成の必要性(留学経験者・留学生・海外大学卒業者)

- 経団連「グローバル人材の育成に向けた提言」(平成23年6月)
 - 社会人基礎力
 - 既成概念にとらわれないチャレンジ精神
 - 外国語コミュニケーション能力(同僚、取引先など)
 - 異文化・価値観の差への興味・関心と柔軟な対応力



(参考・経済界の意見) 広島県のグローバル企業の求める人材像(資質・能力)調査
(平成26年8月)

広島県内の海外進出を行っている企業に対するグローバル人材アンケート調査(平成26年8月実施)一どのような資質・能力が求められるかについての自由記述

- コミュニケーション能力(ビジネス英語・誤解を生まない対話)
- 判断力
- 人間性
- 前向きに考えられる
- マネジメント能力(管理が理解できる)
- コーディネーション能力(交渉力)
- 勇気
- 好奇心

- やる気
- 討議力
- 異文化理解
- ストレス耐性
- 順応性
- チャレンジ精神
- 行動力
- 酒が飲める
- 何でも食べる
など



◆ 事業の目的

若い世代の内向き志向を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、**グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材**の育成を図るべく、**大学教育のグローバル化**を目的とした体制整備事業を支援

◆ グローバル人材の3要素(定義)

I 語学力・コミュニケーション能力

II 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

III 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

(IV) **追加資質・能力(中核人材)**: 幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークとリーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等

◆ 期待される大学の取り組み(**審査の観点**)

- 教育課程としての魅力的な取り組み(インターンシップを含む)
 - ・ 養成しようとするグローバル人材像が明確であること
 - ・ 卒業時での学生の具体的能力(アウトカム)が明確であること
- 教員のグローバル教育力の向上
- 学生の海外留学を促進するための環境整備
- 語学力向上のための一体的取組
- 推進体制・評価体制等の整備



諸外国における“コンピテンシー”論の紹介— OECと国際バカロレア

OECDの提案(デセコ)

- DeSeCo(OECD, *The Definition and Selection of KEY COMPETENCIES: Theoretical and Conceptual Foundation, 2001*)によるキー・コンピテンシーの定義

1. 自律的行動力
 1. 大きな展望の中で活動する
 2. 人生の設計力・プロジェクト力
 3. 自己の権利、利益、ニーズを主張したり、擁護する力
2. 異質な集団における交流力
 1. 他者とうまく関わる能力
 2. 協力する力
 3. 対立を処理し解決する力
3. 相互作用的工具の活用力
 1. 言葉、シンボル、テキストを相互作用的に活用
 2. 知識や情報を相互作用的に活用する力
 3. 技術を相互作用的に活用する力

国際バカロレアの生徒像(資質・能力)

- 1 探求心(Inquirer)
- 2 知識(Knowledgeable)
- 3 思考力(Thinkers)
- 4 コミュニケーション
- 5 オープン・マインド
- 6 思いやり(Caring)
- 7 リスクととれる人(Risk-taking)
- 8 バランスのある人
- 9 反省(Reflective)



ニュージーランドの“キー・コンピテンシー”論 “Capabilities for living and lifelong learning”・・・OECDの提案を最初に積極的に導入したカリキュラム

◆Key Competencies(人生と生涯学習のための力)

- ①Thinking(思考力)
- ②Using Language, Symbols and Text(言語、記号などの活用力)
- ③Managing Self(自己管理能力)
- ④Relating to Others(他者との関わり力)
- ⑤Participating and Contributing(参加・貢献力)

<再掲:OECDのDeSeCo>

- 1 自律的行動力
 - ①大きな展望の中で活動する
 - ②人生の設計力・プロジェクト力
 - ③**自己の権利、利益、ニーズを主張したり、擁護する力**
- 2 異質な集団における交流力
 - ①**他者とうまく関わる能力**
 - ②協力する力
 - ③対立を処理し解決する力
- 3 相互作用的工具の活用力
 - ①**言葉、シンボル、テキストを相互作用的に活用**
 - ②知識や情報を相互作用的に活用する力
 - ③技術を相互作用的に活用する力



NZのキー・コンピテンシー(初中等と高等教育)

New Zealand Curriculum(初中教育)..... 高等教育(Tertiary)資質・能力

- ①Thinking.....①Thinking
 - ②using language, symbols, and texts.....②Using tools interactively
 - ③managing self.....③Acting autonomously
 - ④relating to others.....
 -
 - ⑤participating and contributing.....
- } ④Operating in social groups



オーストラリアの”General Capabilities” (汎用的能力)論

◆ 2008年から開発されてきている”Australian Curriculum” (ACARA)の構造 (2010)

- Discipline-based Learning Areas (教科学習領域)
- General Capabilities (汎用的能力)
- Cross-curriculum Priorities (クロス・カリキュラム優先トピック)
 - Aboriginal and Torres Strait Islander histories and cultures (アボリジニー)
 - Asia and Australia's engagement with Asia (アジア)
 - Sustainability (持続可能性)

◆ 汎用的能力

- ① Literacy (リテラシー)
- ② Numeracy (ヌメラシー)
- ③ ICT Competence (ICT能力)
- ④ Critical and Creative Thinking (批判的・創造的思考力)
- ⑤ Ethical Behaviour (倫理的行動)
- ⑥ Intercultural Understanding (異文化間理解)
- ⑦ Personal and Social Competence (個人的・社会的能力)



オーストラリアの将来の育成すべき人間像と汎用的能力ー“①成功する学習者、②自信をもち創造的な個人、③能動的で情報を持つ市民”



イギリスの“キー・スキルズ”(National Curriculum(1999版~))

◆ キース・キルズの構造

<The Key Skills Qualification (Level1~4で評価)>・・・(オーストラリアのリスト)

- ①Communication (コミュニケーションスキル)・・・(Literacy)
- ②Application of number (数量的スキル)・・・(Numeracy)
- ③Information technology (情報技術スキル)・・・(ICT Capability)

<The wider key skills>

- ④Working with others (他者と共働するスキル)
- ⑤Improving own learning and performance (自己の学習力向上スキル)
- ⑥Problem solving (問題解決スキル)
- ⑦Thinking skill (思考スキル)(情報処理、推論、探究、創造的思考及び評価の各スキルを
含)

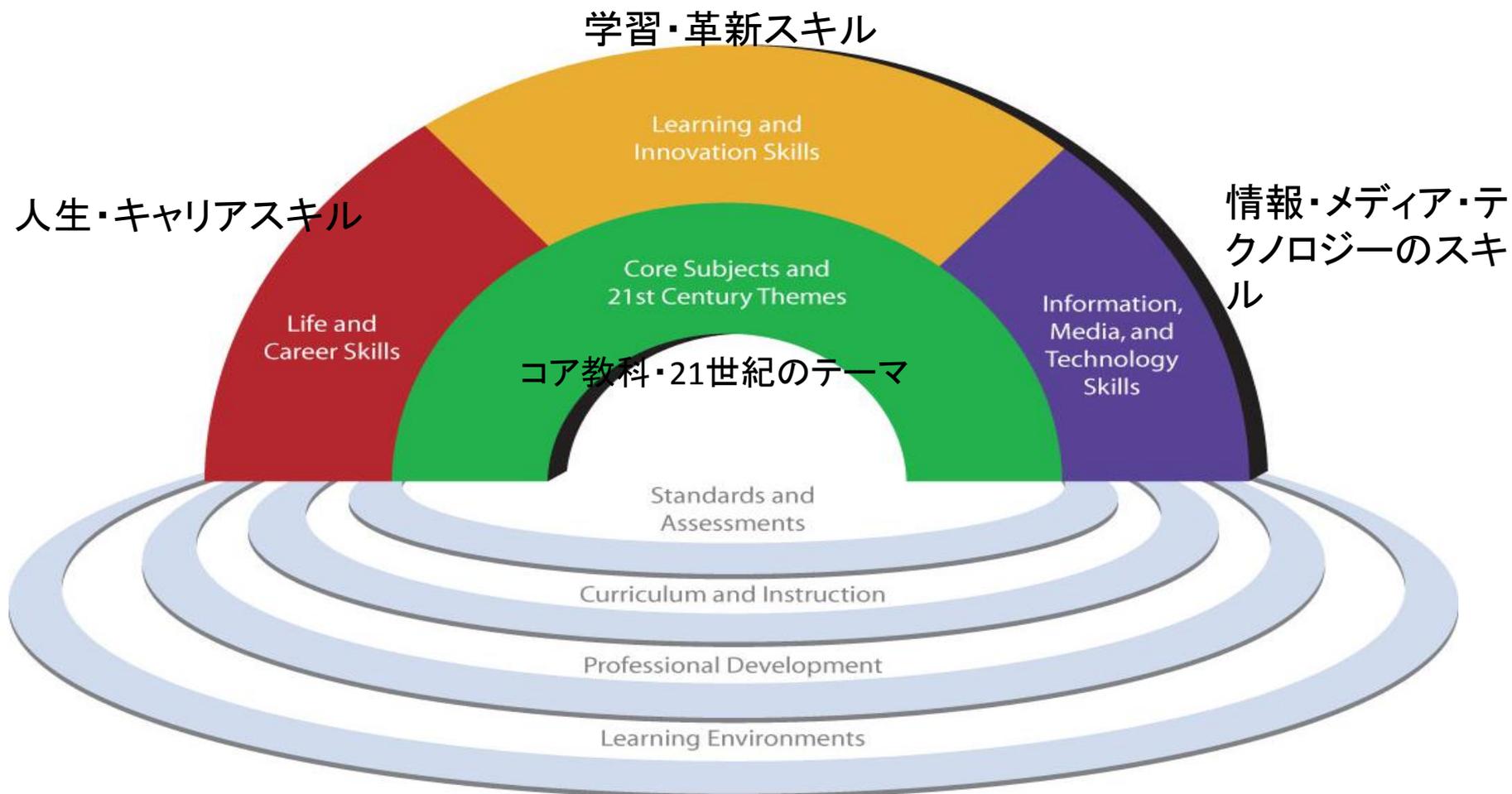
◆ 各スキル(①~⑥)の内容(構成)

- Part A: “What you need to know” (知識)
 - 生徒が知るべき知識と技法(Part Bの行動において活用できるもの)
- Part B: “What you must do” (行動)
 - the evidence components(何を行うことができるかの活動リスト)
 - the assessment criteria (活動の評価の基準)



米国の”21世紀のSkills“論(生徒のアウトカム)

21st Century Student Outcomes and Support Systems



米国の”21世紀のSkills“論(生徒のアウトカム)

◆ Core Subjectsコア・教科と21世紀テーマ(リテラシー)

- 英語、外国語(world language) 芸術、数学、経済学、科学、地理、歴史、政治・公民…

(注)foreign language, second languageという用語が使用されていないことが興味深い)

- グローバル意識・覚醒 Global Awareness
- 財政・経済・ビジネス・起業リテラシー Financial, Economic. Business and entrepreneurial Literacy
- 公民権リテラシー Civic Literacy
- 保健・健康リテラシー Health Literacy
- 環境リテラシー Environmental Literacy

◆ 学習・革新のスキル Learning and Innovation Skills

- 創造性と革新 Creativity and Innovation--Think creatively, Work creatively with others, Implement innovations
- 批判的思考と問題解決力 Critical Thinking and Problem Solving--Reason effectively, Use systems thinking, Make judgments and decisions, Solve problems
- コミュニケーションと協働 Communication and Collaboration--Communicate clearly, Collaborate with others



米国の”21世紀のSkills“論(生徒のアウトカム)

- ◆ **情報・メディアスキル Information, Media and Technology Skills**
 - 情報 Information Literacy---Access and evaluate information, Use and manage information
 - メディア Media Literacy---analyze media, Create media products
 - ICT Literacy

- ◆ **生活・キャリアーのスキル Life and Career Skills**
 - 柔軟性と適応力 Flexible and Adaptability---Adapt to change, Be flexible
 - イニシアティブ力と自己管理 Initiative and Self-Direction---Manage goals and time, Work independently, Be self-directed learners
 - 社会的スキル、クロス・カルチュラル・スキル Social and Cross-cultural Skills---Interact effectively with others, Work effectively in diverse teams
 - 生産性と説明責任 Productivity and Accountability---Manage projects, Produce resultss
 - リーダーシップと責任感 Leadership and Responsibility---Guide and lead others, Be responsible to others

(出典) The Partnership for 21st Century Learning (P21) の提言報告書

http://www.p21.org/storage/documents/P21_framework_0515.pdf



米国のグローバル人材論(世界に通用するアメリカ人がグローバル人材論をどう議論するのか(英語が話せる、多様な人々が住む、世界から人が集まる国の人材論))

◆ 求められるグローバル・コンピテンス“Global Competence” — 経済的競争力の観点からの論議

1. 多文化社会・国際社会で力を発揮できるための知識と活躍できる能力 (A certain level of knowledge and a capacity to function in multicultural or international settings.)
2. 専門分野等での高度なグローバル知識 (A concept created toward specialized professionals (advanced global knowledge in one specific field.))
3. 専門職性の高い人のグローバルコンピテンスに鍵となる知識(経済、市場、政治) (The key knowledge for GC for professionals is economic, market, and political factors.)
4. 外国語運用能力 (foreign language capability (an important characteristics).) (注:ここではworld languageが使用されていない)

(出典: *Proceedings of the Forum on Study Abroad and Economic Competitiveness*, Brookings Institute and others, Feb.2007より。)



追加資料 豪州(NSW州)のグローバル市民の資質・能力 (定義ーグローバル社会の能動的で活躍する市民)

(1) 知識・理解

- 1 相互依存とグローバリゼーション
- 2 アイデンティティと文化的多様性
- 3 社会的正義と人権
- 4 平和構築と紛争解決
- 5 持続可能な未来

(2) 技能・過程(プロセス)

- 1 批判的思考力
- 2 効果的に議論する力
- 3 協力と紛争解決
- 4 問題解決力
- 5 倫理的意思決定

(3) 価値・態度

- 1 アイデンティティ観と自尊感情
- 2 多様性と差異に対する肯定的態度
- 3 共同体意識
- 4 環境への関心と持続可能へのコミットメント
- 5 権利と尊厳の維持

(4) アクションと参画(行動)

- 1 アクションと結果の間関係をみる力
 - 2 変革のアクションに参画する意思
 - 3 アクションを起こす技能と過程
- 出典: NSW, *Global Perspectives*, 2014.



提言 : Cross-cultural Competences論(トップ10) (二宮調査、2003年)

| 順位 | グローバル企業トップリーダーの意見 (回答率25%) (平均54歳) | グローバルに活躍する社員の意見(回答率 14%) (平均37歳) |
|----|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 | 問題解決能力 | 好奇心 |
| 2 | 決断力 | 環境適応力 |
| 3 | 発想力 | 寛容な姿勢 |
| 4 | 目標達成志向 | 協調性 |
| 5 | 積極性 | 意欲 |
| 6 | 説明能力 | 目標達成志向 |
| 7 | 挑戦する態度 | 顧客ニーズ優先 |
| 8 | 好奇心 | 発想力 |
| 9 | コミュニケーション能力 | 積極性 |
| 10 | 広い視野 | 主体性 |



まとめ

ご清聴ありがとうございました！

1. 世界の高等教育市場に積極的に参入する

1. 高等教育の輸出(拡大する世界の高等教育(留学生)市場に目を向ける)
2. 優秀な留学生の確保と日本の競争力強化・・・英語での教育体制、国際共同学位など
3. 世界の教育ニーズ(特にアジア諸国)に応える高等教育への転換・・・私立大学の本来の役割(ODAの時代は国立大学の役割)
4. 世界的国際的通用性の高い高等教育システムへの転換・・・私立大学の国際化
5. 国際的競争力のある日本の高等教育システムを・・・コストが高い・質保証・情報公開、高大接続(APP)や大学3年で大学院に進学する制度(短縮化)の積極的な活用など
6. 世界で日本語を学ぶ人々(世界で約400万人、中国100万人、インドネシア90万人、韓国80万人、台湾20万人、タイ10万人、ベトナム5万人など)に優れた高等教育の機会を提供する(積極的な戦略)
7. 中核人材としての留学生(優秀・日本語能力・母語や英語能力・Cross-cultural Competenceに優れているなどの特性を評価)(世界で働ける力勇気と力をもつ)

2. グローバル人材・グローバル市民の育成(「フラット化」する世界で生き抜く)

1. グローバル人材の基本的な資質能力の徹底した解明を(本当に何が足りないのか)
 1. 大学でのさらなる「好奇心」育成への挑戦
 2. もう一つの世界の現代語(とくにアジアの言葉)学習への挑戦
2. Competency-based Education(アウトカムやパフォーマンス評価)への転換を
3. 留学生と競える日本人学生の育成も(海外留学という教育の輸入が必要)
 1. 海外留学を必修とするコース(Study Abroad)の拡大・拡充(授業料に組み込む)
 2. 大学間交流協定(Students Exchange Programs)の拡大・拡充(私立大学の国際化を)

